

## 文づくり学習盤の指導事例

「文づくり学習盤」は、20mm×20mm のブロックに適した枠の幅となっています。ユニバーサル教材の「ひらがな・カタカナ50音盤」の文字ブロックに適したサイズとなっています。

「文づくり学習盤」は上部が平らな面になっており、ここに絵カード等を置くことができます。公文等の B6 サイズのカードが使用できます。中央より下部に4つの枠があり、1つの枠に8文字を並べることができます。

続いて、使い方を説明します。



ひらがな・カタカナ50音盤

- ① 絵カードの名称の文字ブロックを並べる。並んだ文字の名称に合った絵カードを選んで置く。



文づくり学習盤

絵カードを上部に提示して、4枠のうちの1つの枠に、児童が絵カードの名称の文字ブロックを並べます。50音盤から文字を探すことが難しい場合は、名称を構成する文字を提示して組み合わせれば済むようにすると良いです。

逆に、文字を並べておいて、何枚か提示された異なる絵カードから並べた文字の名称にあった絵カードを児童が選んで上部に置く学習もできます。

- ② 文に合った助詞を選び、枠に置く。

「ヘリコプター□とぶ」であれば、助詞は「が」「は」などが選ばれます。

「ヘリコプター□のる」であれば、助詞は「に」が選ばれます。文に合った助詞を考える学習ができます。





課題の提示の方法としては、いくつかの助詞となる文字をあらかじめ提示しておいて児童が選ぶことや、50音盤から児童が選ぶやり方がありますが、児童の実態に合わせて方法を変えると良いでしょう。

③ 絵カードに合った文章をつくる。



「主語」「述語」「修飾語」を使った文章をつくります。「ぼくは」「わたしは」「男の子は」「こどもは」などが考えられます。

「ボール」は「ドッジボール」とする児童もいるでしょう。

「ちからいっぱい」は「ちからづよく」「おもいきり」「とおくへ」なども考えられます。

「わたしは、ドッジボールをしました。」とする児童もいるでしょう。

課題の提示方法として、「ぼくは」の枠を空白にして提示したり、「ボールを」「ちからいっぱい」「なげました。」

のそれぞれを空白にしておいたりして、児童が考えるのも良いでしょう。これも、児童の実態に合わせて提示方法を変えるのが良いと思います。

また、文章を書くときに、誤字や脱字がよくある児童の場合、まず、文字ブロックを並べて文章をつくったあとに、並べた文字を見ながらノートに文章を写すことで、正確な文章を書くことができます。